

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学部名	学科名		夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
				全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科		夜・通信	9	4	4	17	13	
	ナノサイエンス学科		夜・通信			4	17	13	
	建築学科		夜・通信			4	17	13	
	宇宙航空システム工学科	宇宙航空システム専攻	夜・通信			4	17	13	
		航空整備学専攻	夜・通信			4	17	13	
		航空操縦学専攻	夜・通信			4	17	13	
芸術学部	美術学科		夜・通信	9	2	2	13	13	
	デザイン学科		夜・通信			6	17	13	
情報学部	情報学科		夜・通信	9	4	4	17	13	
生物生命学部	生物生命学科		夜・通信	9	4	10	23	13	
	応用微生物工学科		夜・通信			0	13	13	
	応用生命科学科		夜・通信			0	13	13	
薬学部	薬学科		夜・通信	9	0	11	20	19	
(備考) 生物生命学部は令和4年度に改組され、生物生命学科の一学科となったが、応用微生物工学科、応用生命科学科については、在籍者がいるため全学共通科目のみで算出。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ : https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (実務経験のある教員等による授業科目一覧表)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ：https://www.sojo-u.ac.jp/about/outline/officers_list/（役員・役職員）

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 社長	令和7年6月16日～ 令和11年度定時評議員会	コンプライアンス
非常勤	高等学校 校長	令和7年6月16日～ 令和11年度定時評議員会	学校運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書(シラバス)の作成にあたっては、教務委員会において審議し、①授業の概要、②到達目標の明確化、③授業の計画、④授業の方法、⑤評価基準、⑥教材の内容を盛り込むことがルール化されている。 毎年度のシラバスは、以下の過程を経て作成されている。 11月中旬～12月中旬：次年度授業担当計画表の作成を各学科長あてに依頼（開講学年・開講期間・成績担当者・教室設備等の記入を依頼） 1月上旬：授業担当計画表を基に各科目のシラバス作成を教員あてに依頼 1月下旬：シラバス入力期間終了後、各学科にてシラバス確認 2月下旬：シラバスチェック終了後、各担当教員へのフィードバック 3月上旬：修正期間 4月初旬：シラバス公表（運用開始） なお、シラバスをホームページで4月初旬に公表している。	
授業計画書の公表方法	ホームページ： https://unipa.sojo-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml (シラバス検索)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業については授業回数の確保を厳格化し、各シラバスに記載されている評価方法および評価明細基準に基づき複数回の小テストや課題提出等を設け、多面的な評価により成績を確定している。成績は、成績公開と同時に学生からの異議申し立て期間を経て、厳格かつ適正に単位を授与している。 また、学則および学位規則、履修規程をホームページで公表している。	

3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では、履修登録した科目の単位を、高い学習意欲を持って修得するよう促すことを目的とし、GPA を導入している。 GPA の算出方法は、次のとおりとする。 $\text{GPA 値} = \frac{\Sigma (\text{履修登録した科目の単位数} \times \text{当該科目の「GPA 係数」})}{\text{履修登録した科目の単位数}}$ GPA 係数 秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0、出不=0 GPA 制度の目的および計算方法については、ホームページで公表している。 また「学生便覧」に GPA の制度について詳細に記載し、学生へ周知している。 さらに、学生は、ポータルサイトで自身の GPA の推移を確認することが出来る。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (GPA 制度について)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学では、厳格な成績評価に基づく単位認定を受けて卒業要件を満たした「基礎的・汎用的知識と技能」「専門的知識と技能」「人間性・社会性」「応用力・実践力」の4つの資質・能力を身につけたものに「学士」の学位を授与するものとしてディプロマ・ポリシーを定めている。ディプロマ・ポリシーは、大学・学部・学科の各レベルにおいて、それぞれ定めており、ホームページ等で公表している。 各学科の教育課程に沿った授業計画（シラバス）の中に、ディプロマ・ポリシーとの関連や到達度目標を記載している。これらの能力を身に付けた者に単位を付与し、学則および履修規程に定める各学科の卒業要件に基づき認定している。 卒業判定の手順は、以下のとおりである。 2月中旬：各学科から教務課に卒業に関係するすべての成績が報告される。学生は自身の成績を確認し、同時に教務課において成績に関する問い合わせ期間を設定する。 2月下旬：問い合わせ期間終了後、各学科において最終のチェックを実施する。 3月初旬：卒業認定教授会において卒業を認定する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/outline/policy/ (崇城大学の3つのポリシー)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/settlement/ (HOME>大学紹介>情報公開>事業報告・決算>貸借対照表)
収支計算書又は損益計算書	ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/settlement/ (HOME>大学紹介>情報公開>事業報告・決算>資金収支計算書)
財産目録	ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/settlement/ (HOME>大学紹介>情報公開>事業報告・決算>財産目録)
事業報告書	ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/settlement/ (HOME>大学紹介>情報公開>事業報告・決算>事業報告書)
監事による監査報告(書)	ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/settlement/ (HOME>大学紹介>情報公開>事業報告・決算>監査報告書)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称：	対象年度：
公表方法：	
中長期計画(名称：崇城大学中長期計画	対象年度：R5.4.1～R11.3.31)
公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/efforts/mid_long_plans/ (崇城大学中長期計画)	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/evaluation/ (大学評価)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/evaluation/ (大学評価)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的 公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (HOME>大学紹介>情報公開>教育研究活動等情報の公表>学部・学科の教育研究上の目的)
本学は、各専攻分野および多様な分野の基礎的・専門的知識、汎用的技能、ならびに豊かな人間性・社会性の修得を踏まえて、各専攻分野の抱える課題を発見し、解決する実践的能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、エンジニア・クリエイター・スペシャリストとして社会で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的とする。 (1) 工学部機械工学科は、幅広い教養ならびに機械工学の専門知識および工学的汎用技術を教授し、科学的根拠に裏打ちされた論理的思考力を駆使した課題発見とその解決策の提案ができる工学的素養を培う、“ものづくり教育”を展開する。それを通じて、持続可能社会の実現に向けてグローバル・ローカルな視点から社会貢献・情報発信できる、高い実践力と豊かな人間性・社会性を兼ね備えた問題解決型の機械エンジニアを育成することを教育研究上の目的とする。 (2) 工学部ナノサイエンス学科は、ナノサイエンス分野の基礎的・学際的で高度な専門知識および技能の修得を踏まえて、ナノサイエンス分野の抱える課題を発見し、解決する能力を、研究活動を通じて教育する。これにより、ナノテクノロジーを担う技術者・研究者・企業人に望まれる専門知識と技能、ならびに豊かな人間性・社会性を兼ね備えた人材を育成することを教育研究上の目的とする。 (3) 工学部建築学科は、幅広い教養ならびに建築が有する各分野（設計・計画、歴史・意匠、環境・設備、構造、生産）の基礎的・専門的知識および技能の修得を踏まえて、人間およびその集合体である社会や自然がつくる環境との調和・共存を常に考えつつ、建築物が建ち上がる現実の場において、課題を発見・解決できる能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、豊かな人間性・社会性を備え、建築分野において活躍できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。 (4) 工学部宇宙航空システム工学科は、「基礎重点・実学重視」を教育の基本に、航空宇宙分野において必要とされる資質・能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、論理的思考力、協調性、豊かな人間性や国際的社会性を備え、航空宇宙産業と航空運輸業界ならびに広範な関連産業の発展に寄与できる、(1) 航空宇宙機に関わる専門知識ならびに工学的素養・技能を有するエンジニア・スペシャリスト、(2) 航空工学の専門知識をバックグラウンドに、高い問題解決力と航空機の安全運航を確保するための技能を有する航空整備士・エンジニア、(3) 安全運航を追求し危機管理能力とリーダーシップを有するエアラインパイロットを育成することを教育研究上の目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

公表方法：ホームページ

機械工学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/mechanical/policy/>

ナノサイエンス学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/nanoscience/policy/>

建築学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/architecture/policy/>

宇宙航空システム工学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/aerospace/policy/>

(概要)

《工学部機械工学科》

本学が定める学位授与の方針を受けて工学部機械工学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・優れた実践力を有する機械エンジニアになるために必要な、機械工学に関する基本的な専門知識を身につけたもの。
- ・技術者に要求される、工学的素養並びに機械加工・製図や CAD などの技術開発・設計に必要な技術を身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・社会の維持・発展に貢献できるエンジニアになるために必要な、豊かな人間性・社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・工学的素養と専門知識並びに機械加工・製図や CAD などの開発・設計に必要な技術を活かし、広い視野を持って国内外の様々な課題を積極的に発見し、理論的に解決する能力を身につけたもの。

《工学部ナノサイエンス学科》

本学が定める学位授与の方針を受けて工学部ナノサイエンス学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・ナノサイエンス分野の基礎的・専門的知識及び技能を体系的に身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・技術者・研究者・企業人に相応しい豊かな人間性・社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・本学科での学修を通じて身につけた専門的知識と技能並びに人間性・社会性を基盤として、自ら課題を発見し、解決策を提案・議論し、計画と実施ができるもの。

《工学部建築学科》

本学が定める学位授与の方針を受けて工学部建築学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・建築が有する各分野の知識を体系的に身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・建築にたずさわる者として求められる、社会に対する責任を自覚した豊かな人間性・社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・基礎的・汎用的知識と技能、専門的知識と技能、並びに豊かな人間性・社会性を基盤として、人間及びその集合体である社会や自然がつくる環境との調和・共存を常に考え、さらに、建築物が建ち上がる現実の場において、課題を発見・解決できる能力を身につけたもの。

《工学部宇宙航空システム工学科 宇宙航空システム専攻》

本学が定める学位授与の方針を受けて工学部宇宙航空システム工学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・優れた実践力を有する航空宇宙エンジニア・スペシャリストになる上で求められる、航空宇宙機に関わる専門知識を身につけたもの。
- ・航空宇宙産業を担うために必要な、工学的素養・技能を身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・社会の維持・発展に貢献できるエンジニア・スペシャリストになるために必要な、豊かな人間性・社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・専門知識並びに工学的素養・技能を活かし、広い視野を持って国内外の様々な課題を積極的に発見し、解決する能力を身につけたもの。

《工学部宇宙航空システム工学科 航空整備学専攻》

本学が定める学位授与の方針を受けて工学部宇宙航空システム工学科が設定した「学修目標」の達成度をもとに、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテ

ラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・優れた実践力を有する航空整備士・エンジニアになる上で求められる、航空工学の専門知識を身につけたもの。
- ・航空整備士・エンジニアとして、航空産業を担い、航空機の安全運航を確保するために必要な技能を身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・社会の維持・発展に貢献できる航空整備士・エンジニアになるために必要な、豊かな人間性・社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・専門知識及び技能を活かし、広い視野を持って国内外の様々な課題を積極的に発見し、理論的にも実践的にも解決する能力を身につけたもの。

《工学部宇宙航空システム工学科 航空操縦学専攻》

本学が定める学位授与の方針を受けて工学部宇宙航空システム工学科が設定した「学修目標」の達成度をもとに、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・優れた実践力を有するエアラインパイロットになるために必要な、航空工学、法律、気象など関連する専門知識と、航空機を運航する上でのスキルを身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・社会の維持・発展に貢献できるエアラインパイロットになる上で求められる主体的な行動力、向上心を持ち、高い自己管理能力と協調性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・専門知識及び技能を活かし、広い視野を持って国内外の様々な課題を積極的に発見し、主体的に解決する能力を身につけたもの。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：ホームページ

機械工学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/mechanical/policy/>

ナノサイエンス学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/nanoscience/policy/>

建築学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/architecture/policy/>

宇宙航空システム工学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/aerospace/policy/>

(概要)

《工学部機械工学科》

工学部機械工学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

■専門教育課程を履修する上で、また社会や機械工学分野で活躍するために求められる幅広い知識や

技能の修得ができるよう、初年次教育やアントレプレナーシップ・キャリア教育、リベラルアーツ・データサイエンス教育、数理基礎教育に関係する科目を低学年で開講するとともに、情報リテラシー教育を多学年にわたって行う。

- 国内外の様々な背景を持った人々と良好な人間関係を構築できるよう、アクティブラーニングを活用した授業やネイティブによる英語の授業を多学年にわたって開講し、コミュニケーション能力と英語力の醸成を図る。
- 機械工学のあらゆる分野で必要とされる知識を年次進行とともに段階的に身に付けることができるよう、エネルギー・材料・機械力学・制御・生産技術系科目を多学年にわたって開講する。
- 地域や社会において、機械技術者に求められる役割を理解し、地域、社会、国際環境に応じた適切な貢献ができるよう、地域や社会との繋がりを意識させる科目や、ものづくりの実践を取り上げる応用科目を多学年にわたって開講し、機械工学の基礎知識に加え、機械加工、製図、CADなどの技術開発や設計に求められる専門分野での実践的な対応力の醸成を図る。
- 実社会で要求される責任を認識し、スケジュール管理や報告の義務等の自己管理及び他者と協力して作業を進める協働性を身に付けられるよう、3年次にグループワーク主体の実習科目を開講する。
- 社会の構造やその変化を的確に捉え、機械技術者として自己成長しようとする姿勢を身につけられるよう、地域や社会と機械技術者との関係性を取り上げる科目を継続的に開講する。
- 機械工学にかかわる様々な問題を発見し、解決に導く実践能力を培うことができるよう、各学年にSOJOプロジェクト科目を配し、その経験を4年の卒業研究へと接続させることで、総合的・創造的思考力の醸成を図る。
- 将来にわたって機械工学並びに科学の進歩に貢献可能な下地ができるよう、卒業研究を中心として学会・論文等での発表を視野に入れた活動を展開し、自らが見出した知見を社会に発信する能力の醸成を図る。
- 機械技術者への成長過程を確認できる科目を複数学年に設けることで、学生が自身の立ち位置を把握し、自律的に成長できるようにする。
- 学修成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《工学部ナノサイエンス学科》

工学部ナノサイエンス学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 共通教育課程では、専門教育課程を履修する上で、また社会に出て活躍する上で求められる知識・技能の修得につながる教育を体系的に行う。
具体的には、多様な分野の教養的知識、汎用的技能、倫理観、自己管理力、協働性といった幅広い能力と素養を身につけることができるよう、「初年次教育」「アントレプレナーシップ・キャリア教育」「リベラルアーツ・データサイエンス教育」「数理基礎教育」「英語・日本語教育」の五つの分野で科目を開講する。
- 専門教育課程では、ナノサイエンス分野の基礎から応用へとつながる段階的・系統的な教育を展開するために「化学の基礎教育」の上に「物理化学・化学工学」「無機化学」「有機化学」「高分子科学」「生命化学」「分析化学・環境工学」の分野の科目を徐々に専門性を高める形で配置する。
- 共通教育課程及び専門教育課程では、ナノサイエンス分野で活躍する上で求められる異分野の基礎

知識の修得や専門分野でのキャリア形成につながる科目を配置する。

- 専門教育課程では、ナノサイエンス分野の基礎・専門知識と汎用的な実験技能を身に付けるための演習・実験科目を配置する。さらに、研究活動を通じて課題を発見し解決する能力を養うために、少人数を研究室で指導する先端化学実習の科目を組み合わせ配置する。
- 共通教育課程・専門教育課程の履修を通じて体得した専門的知識、教養的知識、汎用的技能、課題発見・解決能力を基盤として、実践的に研究課題解決に取り組む機会として、卒業研究を最終年次のカリキュラムに組み込む。
- 学修成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《工学部建築学科》

工学部建築学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 建築学を学修する上で、また社会に出て活躍する上で求められる、人文科学・社会科学・自然科学の教養的知識並びに汎用的技能を身につけることができるよう、「初年次教育」「アントレプレナーシップ・キャリア教育」「リベラルアーツ・データサイエンス教育」「数理基礎教育」「英語・日本語教育」の五つの分野で科目を体系的に開講する。
- 建築学の専門知識に基づく思考力、実践力を体系的に修得できるよう、計画から設計までのプロセスを理解した上で、各専門分野の立場から企画、計画及び検証、設計を行い、それをプレゼンテーションする横断的デザイン教育に必要な科目を、年次とともに徐々に専門性を高める形で開講する。また、一級建築士を取得するために必要な科目を開講する。
- 社会に出て活躍する上で求められる豊かな人間性・社会性を身につけることができるよう、倫理観や自己管理能力、協働性等の重要性を講じるとともに、それらを実践的に修得する機会として、アクティブラーニングを積極的に取り入れた多様な科目を共通教育課程・専門教育課程の双方で開講する。
- 共通教育課程・専門教育課程の履修を通じて体得した教養的・専門的知識、汎用的技能並びに人間性・社会性を基盤に、建築・都市にかかわる課題の発見・解決に実践的に取り組む機会として、卒業研究を開講する。
- 学修成果の評価は、設計作品、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《工学部宇宙航空システム工学科 宇宙航空システム専攻》

工学部宇宙航空システム工学科 宇宙航空システム専攻は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また航空宇宙産業並びに広範な関連分野に出て活躍する上で求められる幅広い知識や技能の修得ができるよう、初年次教育やアントレプレナーシップ・キャリア教育、リベラルアーツ・データサイエンス教育、数理基礎教育に関係する科目を体系的に開講する。
- 国内外の様々な背景を持った人々と良好な人間関係を構築できるよう、また国際化する社会や航空

宇宙分野で活躍できるよう、アクティブラーニングを活用した授業やネイティブによる英語の授業を多学年にわたって開講し、コミュニケーション能力と英語力の醸成を図る。

- 「基礎重点・実学重視」の理念に基づき、専門的知識並びに工学的素養・技能を修得する上で基礎となる数学・力学・製図・情報に関する専門基礎科目を初年次において開講する。
- 航空宇宙エンジニア・スペシャリストになる上で求められる専門的知識並びに工学的素養・技能を年次進行とともに段階的に身につけることができるよう、「材料・構造力学分野」「熱・流体力学分野」「運動・制御分野」「航空宇宙機設計製図分野」「航空宇宙機製造運用分野」の科目を多学年にわたって開講する。
- かけがえのない生命を守るため航空宇宙機の安全性を最優先し、最善を尽くすことができる倫理観を身につけることができるよう、工学と倫理に関する事例を取り上げる科目を、共通教育課程と専門教育課程を結びつけながら段階的に開講する。
- 社会の構造やその変化を的確に捉え、航空宇宙エンジニア・スペシャリストとして他者と協働しながら自己成長しようとする姿勢を身につけることができるよう、地域や社会との関係性を取り上げる科目を継続的に開講する。
- 航空宇宙工学の専門的知識並びに工学的素養・技能を活かして社会を幅広く俯瞰し、国内外の様々な課題を発見して解決に導く実践能力を培うことができるよう、実験・実習・プロジェクト科目を多学年にわたって配し、その経験を4年次の卒業研究へと接続させることで、課題発見・解決能力の醸成を図る。
- 航空宇宙工学並びに科学の進歩に貢献できるよう、卒業研究を中心として学会・論文・コンテスト等での発表を視野に入れた活動を展開し、自らが見出した知見を社会に発信する能力の醸成を図る。
- 学修成果の評価は、中間・期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《工学部宇宙航空システム工学科 航空整備学専攻》

工学部宇宙航空システム工学科 航空整備学専攻は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また航空産業並びに広範な関連分野に出て活躍する上で求められる幅広い知識や技能の修得ができるよう、初年次教育やアントレプレナーシップ・キャリア教育、リベラルアーツ・データサイエンス教育、数理基礎教育に関する科目を体系的に開講する。
- 国内外の様々な背景を持った人々と良好な人間関係を構築できるよう、また国際化する社会や航空分野で活躍できるよう、アクティブラーニングを活用した授業やネイティブによる英語の授業を多学年にわたって開講し、コミュニケーション能力と英語力の醸成を図る。
- 「基礎重点・実学重視」の理念に基づき、専門的知識並びに工学的素養・技能を修得する上で基礎となる数学・力学・製図・情報に関する専門基礎科目を初年次において開講する。
- 航空整備士・エンジニアになる上で求められる専門的知識並びに工学的素養・技能を年次進行とともに段階的に身につけることができるよう、「材料・構造力学分野」「流体力学分野」「熱・推進機関分野」「運動・振動分野」「誘導制御分野」「機械製図分野」「航空機専門分野」の科目を多学年にわたって開講する。

- かけがえのない生命を守るため航空機の安全性を最優先し、最善を尽くすことができる倫理観を身につけることができるよう、工学と倫理に関する事例を取り上げる科目を、共通教育課程と専門教育課程を結びつけながら段階的に開講する。
- 社会の構造やその変化を的確に捉え、航空整備士・エンジニアとして他者と協働しながら自己成長しようとする姿勢を身につけることができるよう、地域や社会との関係性を取り上げる科目を継続的に開講する。
- 航空工学及び航空機整備の専門的知識並びに工学的素養・技能を活かして社会を幅広く俯瞰し、国内外の様々な課題を発見して解決に導く実践能力を培うことができるよう、実習・プロジェクト科目を多学年にわたって配し、その経験を4年次の卒業実習へと接続させることで、課題発見・解決能力の醸成を図る。
- 航空工学並びに科学の進歩に貢献できるよう、身につけた整備業務の知識と技量に基づく航空機整備の実業務を視野に入れた実践的な活動を、卒業実習を中心として展開し、自らが見出した知見を社会に発信する能力の醸成を図る。
- 学修成果の評価は、中間・期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《工学部宇宙航空システム工学科 航空操縦学専攻》

工学部宇宙航空システム工学科 航空操縦学専攻は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また航空界並びに広範な関連分野に出て活躍する上で求められる幅広い知識や技能の修得ができるよう、初年次教育やアントレプレナーシップ・キャリア教育、リベラルアーツ・データサイエンス教育、数理基礎教育に関係する科目を体系的に開講する。
- 国内外の様々な背景を持った人々と良好な人間関係を構築できるよう、また国際化する社会や航空分野で活躍できるよう、アクティブラーニングを活用した授業やネイティブによる英語の授業を多学年にわたって開講し、コミュニケーション能力と英語力の醸成を図る。
- 「基礎重点・実学重視」の理念に基づき、航空機の操縦・運航の基礎となる航空工学・気象・空中航法・航空通信・法律などに関する専門基礎科目を飛行訓練開始前までに開講する。
- 優れた実践力を有するエアラインパイロットになる上で求められる専門的知識並びに航空機を運航する上でのスキルを段階的に身につけることができるよう、「操縦理論分野」「航空機装備品・性能分野」「飛行方式分野」「航空安全分野」の科目を多学年にわたって開講する。
- かけがえのない生命を守るため航空機運航の安全性を最優先し、最善を尽くすことができる倫理観を身につけることができるよう、過去に発生した航空事事故例や航空機事故を未然に防ぐためのクルー・リソース・マネジメント（CRM）に関する科目を、段階的に開講する。
- 社会の構造やその変化を的確に捉え、航空界のスペシャリストとして他者と協働しながら自己成長しようとする姿勢を身につけることができるよう、地域や社会との関係性を取り上げる科目を開講する。
- 航空機運航の専門的知識・技能を活かして社会を幅広く俯瞰し、国内外の様々な課題を発見して解決に導く実践能力を培うことができるよう、実機や飛行訓練装置を使った実習・プロジェクト科目を数多く配し、課題発見・解決能力の醸成を図る。

■学修成果の評価は、中間・期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：入試サイト <https://www.sojo-u.ac.jp/nyushi/admissions/policy/>

および入学者選抜募集要項/入試ガイド)

(概要)

4 学科 3 専攻（機械工学科、ナノサイエンス学科、建築学科、宇宙航空システム工学科宇宙航空システム専攻、宇宙航空システム工学科航空整備学専攻、宇宙航空システム工学科航空操縦学専攻）ごとに「求める学生像」と「入学者に求める資質・能力」を定め、公表している。なお、「入学者に求める資質・能力」については学力の三要素に沿う形で明示している。

学部等名 芸術学部

教育研究上の目的 公表方法：ホームページ

<https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/>

(HOME>大学紹介>情報公開>教育研究活動等情報の公表>学部・学科の教育研究上の目的)

本学は、各専攻分野および多様な分野の基礎的・専門的知識、汎用的技能、ならびに豊かな人間性・社会性の修得を踏まえて、各専攻分野の抱える課題を発見し、解決する実践的能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、エンジニア・クリエイター・スペシャリストとして社会で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的とする。

(1) 芸術学部美術学科は、複雑な情報社会である現代社会において、自然界の森羅万象を成り立たせている本質と仕組み、現象を主観と客観のバランスを保ちながら観察し、かつ感覚的にとらえ表現へと昇華させる感性豊かな人材を育成すること、ならびに、デジタル情報化社会に相応しい表現のあり方を模索し、基礎造形力と伝統的な美術の学びを土台にした新しい表現への挑戦を担うことができる豊かな表現力を持った人材を育成することを、教育研究上の目的とする。それを通じて、現代社会において知性と感性を再統合することを目指す。

(2) 芸術学部デザイン学科は、論理的思考力と豊かな感性に基づき、多角的視点と協働性を養い、複雑化する社会問題をデザインプロセスを通して解決し、より良い未来の創造に寄与する人材を育成することを教育研究上の目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

公表方法：ホームページ

美術学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/finearts/policy/>

デザイン学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/design/policy/>

(概要)

＜＜芸術学部美術学科＞＞

本学が定める学位授与の方針を受けて芸術学部美術学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（芸術）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・造形活動や芸術文化研究における専門家として、基礎的技術や専門的知識を総合的に身につけたもの。
- ・造形活動や芸術文化研究を通して培った汎用的造形力や国際的視点を有し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できるもの。

3. 人間性・社会性

- ・専門的な学びを修得するために必要な能動性、自律性を養い、社会において広く専門的な活躍が可能のように協働性を身につけることができるもの。
- ・現代社会を生きるにあたり健全かつ普遍的な倫理観を有し造形活動に反映できるもの。

4. 応用力・実践力

- ・本学での学修を通じて身につけた基礎的・汎用的知識と技能、専門的知識と技能、並びに豊かな人間性・社会性に基づいて、作品制作上の課題発見とその解決ができるもの。

《芸術学部デザイン学科》

本学が定める学位授与の方針を受けて芸術学部デザイン学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（芸術）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・デザインに関わる専門知識や社会的背景の理解を総合的に身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・社会に対する責任を自覚し、豊かな人間性・社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・学修の成果を総合的に活かし、デザインを通して多様化する社会課題の発見とその解決のための創意工夫ができ、より良い社会の発展に貢献できるもの。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：ホームページ

美術学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/finearts/policy/>

デザイン学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/design/policy/>

(概要)

《芸術学部美術学科》

芸術学部美術学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修し、芸術表現分野において活躍する上で求められる幅広い知識や表現技法の修得ができるよう、初年次教育やアントレプレナーシップ・キャリア教育、リベラルアーツ・データサイエンス教育等の科目を低学年で開講するとともに、情報リテラシー教育を多学年にわたって行う。

- 国内外の多様な背景を持った人々と良好な人間関係を構築できるよう、アクティブラーニングを活用した授業やネイティブによる英語の授業を多学年にわたって開講し、コミュニケーション能力と英語力の醸成を図る。
- 美術表現領域のあらゆる分野で必要とされる知識と表現技法を年次進行とともに積み上げ式に身につけることができるよう、平面及び立体技法、基礎デッサン、デジタル表現、西洋・東洋・日本美術史等に関する科目を多学年にわたって開講する。
- 美術表現のエキスパートとして地域や社会において求められる役割を理解し、地域、社会、美術教育現場のそれぞれに応じた適切な貢献ができるよう、地域や社会との繋がりを意識させる科目や、美術制作の展覧会の機会などの実践を取り上げる科目を多学年にわたって開講し、美術世界でのエキスパートとしての実践力と対応力の涵養を図る。
- 美術表現における倫理や、表現物の諸権利に関する事例を取り上げる科目を、それまでに獲得した美術表現に関する専門知識の深さに比例する形式で段階的に開講する。
- 社会の構造やその変化を的確に捉え、表現者として自己成長しようとする姿勢を身につけられるよう、美術家としての地域や社会との関係性を取り上げる科目を継続的に開講する。
- 総合的・創造的思考力の成長を促すべく、表現技法や画材、素材等に関する問題を自ら発見し、解決案を導き出す経験を、4年次の卒業研究へと接続させる。
- 卒業後、美術のエキスパートとしてあらゆる分野で活躍ができるよう、卒業研究を中心として展覧会や各種公募団体への挑戦などの活動を展開し、自らが生み出した作品を社会に発信する能力の醸成を図る。
- 学修成果の評価は、作品講評、中間／期末試験、小テスト、レポート、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《芸術学部デザイン学科》

芸術学部デザイン学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また社会に出てデザイン分野等で活躍する上で求められる幅広い知識や技能の修得ができるよう、初年次教育やアントレプレナーシップ・キャリア教育、リベラルアーツ・データサイエンス教育に関係する科目を低学年で開講するとともに、情報リテラシー教育を多学年にわたって行う。
- 国内外の様々な背景を持った人々と良好な人間関係を構築できるよう、アクティブラーニングを活用した授業やネイティブによる英語の授業を多学年にわたって開講し、コミュニケーション能力と英語力の醸成を図る。
- デザイン分野で必要とされる知識を年次進行とともに段階的に身につけることができるよう、平面及び立体構成、基礎デッサン、色彩、デジタル表現、デザイン史などの科目を多学年にわたって開講する。
- デザインの専門家として地域や社会において求められる役割を理解し、地域、社会、美術教育現場のそれぞれに応じた適切な貢献ができるよう、地域や社会との繋がりを意識させる科目や、デザインの実践を取り上げる応用科目を多学年にわたって開講し、デザイン専門分野での対応力の醸成を図る。
- デザインにおける倫理に関する事例を取り上げる科目を、それまでに獲得したデザインの専門知識

の深さに比例する形式で段階的に開講する。 ■社会の構造やその変化を的確に捉え、デザインに関わる人間として自己成長しようとする姿勢を身につけられるよう、デザインの専門家としての地域や社会との関係性を取り上げる科目を継続的に開講する。 ■デザインに関わる様々な問題を発見し、解決に導く実践能力を培うことができるよう、3年次に専門領域の実習を配し、その経験を4年次の卒業研究へと接続させることで、総合的・創造的思考力の醸成を図る。 ■卒業後、デザインのエキスパートとしてあらゆる分野で活躍できるよう、卒業研究を中心としてデザインプロジェクトやゼミ活動を展開し、自らが見出した知見を社会に発信する能力の醸成を図る。 ■学修成果の評価は、作品講評、中間／期末試験、小テスト、レポート、プレゼンテーション、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：入試サイト https://www.sojo-u.ac.jp/nyushi/admissions/policy および入学者選抜募集要項/入試ガイド)
(概要) 学科(美術学科、デザイン学科)ごとに「求める学生像」と「入学者に求める資質・能力」を定め、公表している。なお、「入学者に求める資質・能力」については学力の三要素に沿う形で明示している。

学部等名 情報学部
教育研究上の目的 公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (HOME>大学紹介>情報公開>教育研究活動等情報の公表>学部・学科の教育研究上の目的)
(概要) 本学は、各専攻分野および多様な分野の基礎的・専門的知識、汎用的技能、ならびに豊かな人間性・社会性の修得を踏まえて、各専攻分野の抱える課題を発見し、解決する実践的能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、エンジニア・クリエイター・スペシャリストとして社会で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的とする。 情報学部情報学科は、(1)人工知能・マルチメディア・プログラミング・情報通信ネットワーク・電子デバイス分野における最新の情報技術を支える人材、(2)優れた論理的思考力とコミュニケーション能力によって情報技術社会を発展させる人材、(3)豊かな人間性・社会性を備え、しなやかな知識を活かして、地域や社会の問題解決に応用できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法：ホームページ 情報学科 https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/information/informatics/policy/

(概要)

《情報学部情報学科 未来情報コース》

本学が定める学位授与の方針を受けて情報学部情報学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・情報工学分野における専門知識と技術を身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・社会の維持・発展に貢献できるエンジニアになるために必要な、豊かな人間性と社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・本学科での学修を通じて身につけた、基礎的・汎用的知識と技能、情報工学技術、並びに豊かな人間性・社会性を基盤として、地域や社会の問題解決やその他広い分野での課題発見とその解決ができるもの。

《情報学部情報学科 知能情報コース》

本学が定める学位授与の方針を受けて情報学部情報学科が設定した「学修目標」の達成度元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・情報工学分野における専門知識と技術を身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・社会の維持・発展に貢献できるエンジニアになるために必要な、豊かな人間性と社会性を身につけたもの。

4. 応用力・実践力

- ・本学科での学修を通じて身につけた、基礎的・汎用的知識と技能、情報工学技術、並びに豊かな人間性・社会性を基盤として、地域や社会の問題解決やその他広い分野での課題発見とその解決ができるもの。

《情報学部情報学科 電子通信コース》

本学が定める学位授与の方針を受けて情報学部情報学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。
2. 専門的知識と技能
- ・情報工学分野における専門知識と技術を身につけたもの。
3. 人間性・社会性
- ・社会の維持・発展に貢献できるエンジニアになるために必要な、豊かな人間性と社会性を身につけたもの。
4. 応用力・実践力
- ・本学科での学修を通じて身につけた、基礎的・汎用的知識と技能、情報工学技術、並びに豊かな人間性・社会性を基盤として、地域や社会の問題解決やその他広い分野での課題発見とその解決ができるもの。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：ホームページ

情報学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/information/informatics/policy/>

(概要)

《情報学部情報学科（未来情報コース）》

情報学部情報学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また社会に出て活躍する上で求められる、人文科学・社会科学・自然科学の教養的知識並びに汎用的技能を身につけることができるよう、共通教育課程の諸科目を体系的に開講する。
- 情報・通信・AI・地域創生に関する専門的な知識・技術を体系的に修得できるよう、上記分野に応じたコースを定め、年次と共に徐々に専門性を高める形で、基礎から応用へとつながる段階的・系統的な教育を展開する。
- 社会に出て活躍する上で求められる豊かな人間性・社会性を身につけることができるよう、共通教育課程・専門教育課程の双方の多様な科目において、倫理観や自己管理能力、協働性等の重要性を講じるとともに、それらを実践的に修得する機会としてアクティブラーニングを積極的に取り入れる。
- 共通教育課程・専門教育課程の履修を通じて体得した教養的・専門的知識、汎用的技能並びに人間性・社会性を基盤に、情報・電気・電子・通信・地域創生に関する課題の発見・解決に実践的に取り組む機会として、卒業研究をカリキュラムに組み込む。
- 情報・電気・電子・通信・地域創生に関する課題を発見し、その解決策を導く実践的能力を養うため、講義形式の教育の他、演習や実験・実習等の体験を通じた自得の教育を、共通教育課程・専門教育課程の双方において積極的に推進する。
- 学修成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《情報学部情報学科（知能情報コース）》

情報学部情報学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するため

に、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また社会に出て活躍する上で求められる、人文科学・社会科学・自然科学の教養的知識並びに汎用的技能を身につけることができるよう、共通教育課程の諸科目を体系的に開講する。
- 情報・通信・AI・ソフトウェアに関する専門的な知識・技術を体系的に修得できるよう、上記分野に応じたコースを定め、年次と共に徐々に専門性を高める形で、基礎から応用へとつながる段階的・系統的教育を展開する。
- 社会に出て活躍する上で求められる豊かな人間性・社会性を身につけることができるよう、共通教育課程・専門教育課程の双方の多様な科目において、倫理観や自己管理能力、協働性等の重要性を講じるとともに、それらを実践的に修得する機会としてアクティブラーニングを積極的に取り入れる。
- 共通教育課程・専門教育課程の履修を通じて体得した教養的・専門的知識、汎用的技能並びに人間性・社会性を基盤に、情報・電気・電子・通信・地域創生に関する課題の発見・解決に実践的に取り組む機会として、卒業研究をカリキュラムに組み込む。
- 情報・電気・電子・通信・地域創生に関する課題を発見し、その解決策を導く実践的能力を養うため、講義形式の教育の他、演習や実験・実習等の体験を通した自得の教育を、共通教育課程・専門教育課程の双方において積極的に推進する。
- 学修成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

《情報学部情報学科（電子通信コース）》

情報学部情報学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また社会に出て活躍する上で求められる、人文科学・社会科学・自然科学の教養的知識並びに汎用的技能を身につけることができるよう、共通教育課程の諸科目を体系的に開講する。
- 情報・電気・電子・通信に関する専門的な知識・技術を体系的に修得できるよう、上記分野に応じたコースを定め、年次と共に徐々に専門性を高める形で、基礎から応用へとつながる段階的・系統的教育を展開する。
- 社会に出て活躍する上で求められる豊かな人間性・社会性を身につけることができるよう、共通教育課程・専門教育課程の双方の多様な科目において、倫理観や自己管理能力、協働性等の重要性を講じるとともに、それらを実践的に修得する機会としてアクティブラーニングを積極的に取り入れる。
- 共通教育課程・専門教育課程の履修を通じて体得した教養的・専門的知識、汎用的技能並びに人間性・社会性を基盤に、情報・電気・電子・通信・地域創生に関する課題の発見・解決に実践的に取り組む機会として、卒業研究をカリキュラムに組み込む。
- 情報・電気・電子・通信・地域創生に関する課題を発見し、その解決策を導く実践的能力を養うため、講義形式の教育の他、演習や実験・実習等の体験を通した自得の教育を、共通教育課程・専門教育課程の双方において積極的に推進する。

■学修成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：入試サイト https://www.sojo-u.ac.jp/nyushi/admissions/policy および入学者選抜募集要項/入試ガイド)
(概要) 「求める学生像」と「入学者に求める資質・能力」を定め、公表している。なお、「入学者に求める資質・能力」については学力の三要素に沿う形で明示している。

学部等名 生物生命学部
教育研究上の目的 公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (HOME>大学紹介>情報公開>教育研究活動等情報の公表>学部・学科の教育研究上の目的)
(概要) 本学は、各専攻分野および多様な分野の基礎的・専門的知識、汎用的技能、ならびに豊かな人間性・社会性の修得を踏まえて、各専攻分野の抱える課題を発見し、解決する実践的能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、エンジニア・クリエイター・スペシャリストとして社会で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的とする。 生物生命学部生物生命学科は、生命科学、生物工学、環境科学、ならびに食品科学または医薬学・医用工学の各分野における課題を柔軟に解決する上で求められる専門知識と技能の修得を踏まえて、科学的根拠に基づいて論理的に思考・討論し、課題を解決に導く実践的な能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、技術者・研究者に望まれる高い専門性と健全な倫理観、ならびに豊かな人間性・社会性を兼ね備えた人材を育成することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法：ホームページ 生物生命学科 https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/biotechnology/bio/policy/
(概要) ＜＜生物生命学部生物生命学科＞＞ 本学が定める学位授与の方針を受けて生物生命学部生物生命学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（工学）の学位を授与する。 1. 基礎的・汎用的知識と技能 ・人文・社会・自然科学分野の教養的知識、専門基礎的知識、並びにコミュニケーション能力やリテラシー、論理力をはじめとする汎用的技能を身につけたもの。 2. 専門的知識と技能 ・生命科学、生物工学、環境科学、並びに食品科学又は医薬学・医用工学に関する専門知識を有するもの。 3. 人間性・社会性 ・社会の要求する課題を柔軟に解決するために、地球環境と生命を尊重できる豊かな人間性と健全な

倫理性、並びにチームワークに必要な協働性とリーダーシップを有するもの。 4. 応用力・実践力 ・生命科学、生物工学、環境科学、並びに食品科学又は医薬学・医用工学分野において、基礎的・汎用的知識と技能、専門的知識と技能、並びに豊かな人間性・社会性を基盤として、社会の要求する課題を発見して解決する能力を身につけたもの。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：ホームページ 生物生命学科 https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/biotechnology/bio/policy/
(概要) 《生物生命学部生物生命学科》 生物生命学部生物生命学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。 ■専門教育課程を履修する上で、また社会や専門分野の技術者・研究者として求められる幅広い知識や技能の習得ができるよう「初年次教育」「アントレプレナーシップ・キャリア教育」「リベラルアーツ・データサイエンス教育」「数理基礎教育」「英語・日本語教育」を体系的に開講する。 ■基礎から応用へとつながる段階的・系統的な教育を展開するために、「化学・生物学の基礎教育」の上に、「細胞」「遺伝子」「環境」「食品」「生命科学」の各分野の科目を徐々に専門性を高める形で配置する。 ■実社会で必要とされる責任・倫理観を認識し、豊かな人間性・社会性を身につけることができるよう、倫理観や自己管理能力、他者と協力して作業を進める協働性を実践的に修得する機会として、アクティブラーニングを積極的に取り入れた多様な科目を開講する。 ■共通教育課程・専門教育課程の履修を通じて体得した専門的知識、教養的知識、汎用的知識を基盤に、生物生命にかかわる様々な問題を発見し、実践的に研究課題解決に取り組む機会として、卒業研究を最終年次のカリキュラムに組み込む。 ■学修成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：入試サイト https://www.sojo-u.ac.jp/nyushi/admissions/policy および入学者選抜募集要項/入試ガイド)
(概要) 「求める学生像」と「入学者に求める資質・能力」を定め、公表している。なお、「入学者に求める資質・能力」については学力の三要素に沿う形で明示している。
学部等名 薬学部
教育研究上の目的 公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (HOME>大学紹介>情報公開>教育研究活動等情報の公表>学部・学科の教育研究上の目的)

(概要)

本学は、各専攻分野および多様な分野の基礎的・専門的知識、汎用的技能、ならびに豊かな人間性・社会性の修得を踏まえて、各専攻分野の抱える課題を発見し、解決する実践的能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、エンジニア・クリエイター・スペシャリストとして社会で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的とする。

薬学部薬学科は、幅広い教養ならびに基礎薬学、医療薬学および衛生薬学の知識を教授し、国際化・情報化への対応能力を育み、医療における様々な問題に対する科学的根拠および論理的思考に裏打ちされた問題解決能力を涵養することに重きをおいた教育を展開する。それを通じて、医療・保健・創薬などいずれの分野に進んでも医療の進歩やニーズを的確に捉え、患者志向の薬の専門家として広く社会に貢献・発信できる、高い資質と健全な倫理観、継続的な学習姿勢を身につけた人材を育成することを教育研究上の目的とする。特に、患者・地域の人々・他の医療従事者から信頼され、医療現場で率先して活躍できる実践能力の高い人材を育成することを目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針

公表方法：ホームページ

薬学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/pharmaceutical/pharmacy/policy/>

(概要)

《薬学部薬学科》

本学が定める学位授与の方針を受けて薬学部薬学科が設定した「学修目標」の達成度を元に、以下の資質・能力を有すると認定したものに、学士（薬学）の学位を授与する。

1. 基礎的・汎用的知識と技能

- ・幅広い教養と汎用的技能を身につけたもの。
- ・国内外の様々な人々と良好な人間関係を構築できるコミュニケーション能力と語学力を身につけたもの。

2. 専門的知識と技能

- ・基礎薬学、衛生薬学並びに医療薬学の知識を身につけ、それらの医療における重要性を理解しているもの。
- ・薬の専門家として、地域や社会における自身の役割を理解し、医療の進歩やニーズを的確に捉え、常に最善の医療を選択・提供できる能力を身につけたもの。

3. 人間性・社会性

- ・患者・地域の人々・他の医療従事者から信頼される薬の専門家に相応しい高い使命感、責任感、誠実さと思いやりの心、並びに継続的な学習姿勢を身につけたもの。
- ・地域ひいては広く社会に貢献する姿勢を有し、時代に応じて求められる薬剤師像を追求できるもの。

4. 応用力・実践力

- ・医療における問題について、科学的根拠に基づいて論理的に思考・討論し、問題を解決に導く実践能力を身につけたもの。
- ・自らが見出した知見を社会に発信することで、医療ならびに科学の進歩に貢献できるもの。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：ホームページ

薬学科 <https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/pharmaceutical/pharmacy/policy/>

(概要)

《薬学部薬学科》

薬学部薬学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、共通教育課程及び専門教育課程から成る教育課程を以下の方針に基づいて編成する。

- 専門教育課程を履修する上で、また社会や医療分野に出て活躍する上で求められる幅広い知識や技能の修得ができるよう、初年次教育やアントレプレナーシップ・キャリア教育、リベラルアーツ・データサイエンス教育、数理基礎教育に関係する科目を低学年で開講するとともに、情報リテラシー教育を多学年にわたって行う。
- 国内外の様々な背景を持った人々と良好な人間関係を構築できるよう、アクティブラーニングを活用した授業やネイティブによる英語の授業を多学年にわたって開講し、コミュニケーション能力と英語力の醸成を図る。
- 薬学のあらゆる分野で必要とされる知識を年次進行とともに段階的に身につけることができるよう、基礎・医療・衛生薬学系科目を多学年にわたって開講する。
- 地域や社会において、薬の専門家として求められる役割を理解し、地域、社会、医療環境に応じた適切な貢献ができるよう、地域や社会との繋がりを意識させる科目や、薬物治療の実践を取り上げる応用科目を多学年にわたって開講し、薬学専門分野での対応力の醸成を図る。
- 様々な医療職と連携しながら薬の専門家として患者や地域の生活者の生活と命を最優先し、最善を尽くすことができる利他的態度を身につけられるよう、医療や倫理に関する事例を取り上げる科目を、それまでに獲得した薬学専門知識の深さに比例する形式で段階的に開講する。
- 社会の構造やその変化を的確に捉え、薬剤師として自己成長しようとする姿勢を身につけられるよう、地域や社会と薬剤師との関係性を取り上げる科目を継続的に開講する。
- 医療における様々な問題を発見し、解決に導く実践能力を培うことができるよう、3年次に基礎・医療・衛生薬学系領域の実習を配し、その経験を4年次以降の卒業研究へと接続させることで、総合的・創造的思考力の醸成を図る。
- 将来にわたって医療並びに科学の進歩に貢献可能な下地ができるよう、卒業研究を中心として学会・論文等での発表を視野に入れた活動を展開し、自らが見出した知見を社会に発信する能力の醸成を図る。
- 薬の専門家への成長過程を確認できる科目を複数学年に設けることで、学生が自身の立ち位置を把握し、自律的に成長できるようにする。
- 学修成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：入試サイト <https://www.sojo-u.ac.jp/nyushi/admissions/policy>
および入学者選抜募集要項/入試ガイド)

(概要)

「求める学生像」と「入学者に求める資質・能力」を定め、公表している。なお、「入学者に求める資質・能力」については学力の三要素に沿う形で明示している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ

<https://www.sojo-u.ac.jp/about/>（HOME＞大学紹介＞大学概要＞組織図）

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4 人	—					4 人
工学部	—	42 人	11 人	21 人	10 人	0 人	84 人
芸術学部	—	10 人	4 人	0 人	1 人	0 人	15 人
情報学部	—	13 人	3 人	0 人	6 人	0 人	22 人
生物生命学部	—	19 人	7 人	0 人	1 人	0 人	27 人
薬学部	—	19 人	10 人	5 人	5 人	1 人	40 人
教養部（一般教養）	—	15 人	11 人	17 人	7 人	0 人	50 人
附置研究所	—	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人
その他	—	2 人	0 人	3 人	0 人	0 人	5 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0 人			102 人				102 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ https://rsrch.ofc.sojo-u.ac.jp/sjuhp/KgApp/ （研究業績データベース）					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では、教務委員会の下部組織として FD 委員会を設置し、教員の授業内容・授業方法の改善及び向上を目的に全学的に取り組んでいる。 授業アンケートについては、FD 委員会を中心に内容の見直しを行い、半期ごとに実施しており、授業アンケートの学生からの評価や意見を集約させ、各担当教員へフィードバックしている。評価の高かった教員に対しては「ベストティーチング賞」を授与、表彰を行い、その授業内容や教授方法について「崇城大学紀要」に掲載、公表し、他の教員の授業方法等の改善に役立てている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

[illegible]

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	234 人 (100%)	20 人 (8.5%)	183 人 (78.2%)	31 人 (13.2%)
芸術学部	56 人 (100%)	2 人 (3.6%)	28 人 (50.0%)	26 人 (46.4%)
情報学部	139 人 (100%)	17 人 (12.2%)	117 人 (84.2%)	5 人 (3.6%)
生物生命学部	124 人 (100%)	24 人 (19.4%)	86 人 (69.4%)	14 人 (11.3%)
薬学部	128 人 (100%)	0 人 (0.0%)	104 人 (81.3%)	24 人 (18.8%)
合計	681 人 (100%)	63 人 (9.3%)	518 人 (76.1%)	100 人 (14.7%)
(主な就職先) (任意記載事項) (工学部) IHI 回転機械エンジニアリング、ANA ベースメンテナンステクニクス、ANA ラインメンテナンステクニクス、清水建設、JASM、JAL エンジニアリング、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、大成建設、日産自動車、平田機工 (芸術学部) イリア、熊本銀行、C2C、スティミュラスイメージ、Timingood、ナノコネクト、バド・プレスト、美創、プレックス、ブンカ巧芸社 (情報学部) RKKCS、九電工、熊本県民テレビ、SYSKEN、JASM、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、TOPPAN、TOTO、平田機工、富士ソフト (生物生命学部) 五木食品、カネリョウ海藻、九星飲料工業、霧島酒造、熊本製粉、KM バイオロジクス、新日本科学、東亜新薬、富田薬品、山崎製パン (薬学部) アインホールディングス、ユーザイ、大賀薬局、クオール、熊本市民病院、国立病院機構（九州グループ）、済生会熊本病院、総合メディカルグループ、日本調剤、福岡大学病院 その他、自衛隊、県庁、市役所、教員等 (主な進学先) 崇城大学大学院、熊本大学大学院、熊本県立大学大学院、九州大学大学院、筑波大学大学院、大阪大学大学院、北九州市立大学大学院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画（シラバス）の作成にあたっては、教務委員会において審議し、①授業の概要、②到達目標の明確化、③授業の計画、④授業の方法、⑤評価基準、⑥教材の内容を盛り込むことがルール化されている。 毎年度のシラバスは、以下の過程を経て作成されている。 11月中旬～12月中旬：次年度授業担当計画表の作成を各学科長あてに依頼（開講学年・開講期間・成績担当者・教室設備等の記入を依頼） 1月上旬：授業担当計画表を基に各科目のシラバス作成を教員あてに依頼 1月下旬：シラバス入力期間終了後、各学科にてシラバス確認 2月下旬：シラバスチェック終了後、各担当教員へのフィードバック 3月上旬：修正期間 4月初旬：シラバス公表（運用開始） なお、年間の授業計画については、カリキュラムフローを教務委員会で策定し、ホームページで公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学習成果の評価は、中間／期末試験、小テスト、レポート、成果発表、作品、ポートフォリオ等多面的な方法を用いて、各科目で設定する到達度目標ごとに、客観的・厳格に行う。 成績は次の基準により評定する。 <table border="1"> <tr> <td> 秀：90～100点、優：80～89点、良：70～79点、可：60～69点、 不可：0～59点、出不：単位認定対象外 </td></tr> </table> 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関しては、学則及び履修規程において明確に定め、厳格に運用している。	秀：90～100点、優：80～89点、良：70～79点、可：60～69点、 不可：0～59点、出不：単位認定対象外
秀：90～100点、優：80～89点、良：70～79点、可：60～69点、 不可：0～59点、出不：単位認定対象外	

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工	機械工	124 単位	有	46 単位
	ナノサイエンス	124 単位	有	46 単位
	建築	124 単位	有	46 単位
	宇宙航空システム工	124 単位	有	46 単位
芸術	美術	124 単位	有	46 単位
	デザイン	124 単位	有	46 単位
情報	情報	124 単位	有	46 単位
生物生命	生物生命	124 単位	有	46 単位
	応用微生物工	124 単位	有	46 単位
	応用生命科	124 単位	有	46 単位
薬	薬	192 単位 (2023 年 度入学者まで) 186 単位 (2024 年 度入学者より)	有	46 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/student_life/achievement/news/ (学生の活躍情報) https://www.sojo-u.ac.jp/student_life/achievement/awards/ (笑顔と感謝の表彰制度)		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/access/campus/ (メインキャンパスマップ) https://www.sojo-u.ac.jp/access/airportcampus/ (空港キャンパスマップ) https://www.sojo-u.ac.jp/silc/ (SILC) https://www.lib.sojo-u.ac.jp/ (図書館) https://www.sojo-u.ac.jp/sumic/ (SUMIC) https://www.sojo-u.ac.jp/news/2018/180928_002945.html (SoLA) https://www.cis.sojo-u.ac.jp/index.php/iot-ai-center.html (IoT・AI センター) https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/sojo_gallery/ (SOJO GALLERY)
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名		授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	機械工学科		950,000 円	220,000 円	300,000 円	左記は R7 年度入学者の 金額
	ナノサイエンス学科					
	建築学科					
	宇宙航空 システム 工学科	宇宙航空 システム専攻			1～2 年次 300,000 円 3～4 年次 450,000 円	
		航空整備学 専攻				
		航空操縦学 専攻				
芸術学部	美術学科		400,000 円			
	デザイン学科					
情報学部	情報学科		300,000 円			
生物生命学部	生物生命学科		300,000 円			
薬学部	薬学科		1 年次 1,300,000 円 2～6 年次 1,700,000 円	300,000 円	300,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・ ポートフォリオシステム：学生に「気づき→努力→自信→意欲」の PDCA サイクルを回す習慣を身につけさせ、学修意欲の促進を図ることを目的としてポートフォリオを導入している。学生・教員・職員各々が、学生一人ひとりの授業、活動、生活面などを記入することでデータ化され、迅速な学生支援や学生一人ひとりの目標達成に役立てている。 ・ チューター制度：学生が入学して卒業するまでの 4 年間、1 人の先生に、将来の夢や志、進路や修学に関することなどを相談できる制度である。学生にとって、“何でも相談相手”となる先生をチューター制度とし、学生は教員 1 人に対して学生約 5 人の割合で、手厚いサポートを受けることができる制度である。本学では、“チューター制度”や“クラス担任制”をどちらも導入し、各学科チューターと担任の先生、大学の各部署との連携のもと、学生一人ひとりの成長を全面的にサポートしている。 ・ 学生ファシリテーター（全学・学科 SALC）：大学教育再生加速プログラムに採択された実績をベースに、学生ファシリテーターを養成し、修学支援をしている。学生ファシリテーターは下級生や他の学生からの学びに関する相談、質問に対応するため、全学 SALC（Self-Access Learning Center）もしくは学科 SALC に常駐し、これまでの学びの成果や経験を下級生や他の学生に伝えることで、自らの学びの成果を再構築している。下級生や他の学生にとっては、学生ファシリテーターへの相談が自律的な学びの機会となる。また、その過程でコミュニケーション能力の向上を図るよう計画している。 ・ TA（ティーチング・アシスタント）：大学院生が学部学生に対して助言や実験等の教育

補助業務を行い、実験・実習・演習等をより効果的に行うため、学生の修学を支援している。教育を担う者としての自覚や意識の涵養と学生に対する教育方法等の在り方を学び、授業の実施方法や教材等の作成に関する教育などを実施し、きめ細やかな学部教育の実現を目指している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

①チューター、担任、指導教員等による対話型支援

- ・教員が定期的に学生面談を実施。面談状況をポートフォリオシステムへ記録し、学生部長を中心に情報を共有して支援に活用。（進路相談および生活相談）

②教員と就職部による連携支援

- ・各学科にキャリアアドバイザー（就職担当教員）を配置し、就職部とキャリアアドバイザーにて学生の活動状況について情報共有。

③各学科による支援

- ・学科主導業界説明会開催、模擬面接練習実施、企業訪問、来訪企業との面談。

④就職部による支援

- ・対面またはWEBでの就職ガイダンスとして、自己分析講座、企業研究・業界研究講座、インターンシップ講座、エントリーシート作成講座などの多様な行事を実施。
- ・学内合同企業研究会を実施（3日間、250社程度）。
- ・学内個別企業説明会の開催（年間申込社数435社程度）。
- ・就職部内に常時2～3名配置キャリアカウンセラー（就職相談員）を配置。

（1回50分、年間1,500件程度のカウンセリングを実施）

その他、カリキュラム編成において、学生に大学4年間と卒業後のキャリアデザインを模索させることを意識し、1年次よりPBL型のチーム学修を通じた学びを実践。2年次以降のキャリア教育ではより実践的内容の科目を設定し、大学と産業界の接続型教育科目群を構築している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- ・担任制による学生支援：クラス全体に関する事柄や連絡と説明、保護者への連絡対応、緊急対応などを担任が行い、学生への心身や健康に関する支援も行っている。
- ・チューター制による学生支援：入学時から担任の他に一人の教員が約5人の学生をきめ細かくサポートする「チューター制度」を導入し、担任をはじめ、学生支援センター、学生厚生課、教務課、就職課、国際交流センターといった関係先との連携の下、学生の将来の夢や志、進路や修学に関することなどを把握しながら、心身や健康に関する支援も行っている。
- ・学生支援センターによる支援：メンタル的な問題で不安や心配を抱えている学生には、専属の相談員（ソーシャルワーカーを含む）や臨床心理士・公認心理師等の資格を有したカウンセラーが常時対応し、専門的な立場での支援を行っている。また、障害がある学生には、関連する教員と連携を行い、授業等における合理的配慮の提供等、必要な支援を行っている。
- ・学生部長付専門員による支援：学生のトラブル（架空請求、金銭問題、交通事故、犯罪

予防)などの心的ストレスを抱える学生の相談窓口として、専門員が相談に乗りトラブル解決の支援を行っている。

- ・看護師による支援：看護師3名により学生の心身の健康を支援している。すべてのキャンパスにおいて看護師を配置し学生を支援している。
また、全学生の健康診断による検査データを蓄積し、学生個々の健康状態を管理している。学生からは様々な相談もあり、常に学生に寄り添った支援をしている。
- ・UPI調査の活用：入学時に新入生全員を対象としたUPI調査（精神的健康度調査）を毎年実施している。学生支援センターの相談員が学生対応を行う際や、担任・チューターが学生と面談する際にこの調査結果を活用し、学業不振・不登校などにつながる、何らかの問題を抱えた学生を早期に発見するための有効なツールとなっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ

<https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/>

(HOME>大学紹介>情報公開>教育研究活動等情報の公表)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

⑪総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

a. 入試科目の見直し

取り組みなし

b. 入学後の文理横断型の教育

取り組みなし

c. 複線的・多面的な学び

取り組みなし

d. 全学的なデータサイエンス教育等の総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組

本学では、「データサイエンス入門」を必修科目として全学部で開講している。その中では、データやその表現、データサイエンスとは何か、AIの倫理に関する基本的なことを学ぶとともに、データサイエンスがさまざまな分野でどのような可能性をもち、今後どのような技術開発につながっていく可能性があるのかということ、芸術、薬学、工学、生物学、情報学などでの実際の活用事例から習得する内容となっている。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F143310111317
学校名 (〇〇大学 等)	崇城大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人君が淵学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		521人（ 20 ）人	535人（ 29 ）人	－ 人（ － ）人
内 訳	第Ⅰ区分	272人	262人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	120人	126人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	71人	67人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	38人	51人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	20人	29人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－ 人（ － ）人
合計（年間）				554人（ 30 ）人
（備考） 授業料減免のみ学生 1 名含む				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	18人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	16人	人	人
計	35人	人	人
(備考) 「修業年限で卒業又は修了できないことが確定」には卒業延期の学生含む			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	49人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	20人	人	人
計	58人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。